Newsweek

SPECIAL REPORT

軍事

Angry at the Yanks

# アメリカを悩ます韓国の怒りと誇り

## 反米運動の高まりに駐留米兵は困惑

ジョージ・ウェアフリッツ（東京支局長）

韓国に駐留する多くの米軍兵士と同じく、ジョン・ストーン空軍中尉も地元の人々が暮らす地域に住まいを構えた。

昨年6月に妻を連れて着任したストーンは、ソウル近郊にある烏山空軍基地近くにマンションを借り、韓国人の友人をつくったり、家主の手料理を味見する毎日を楽しみはじめた。

昨年後半から韓国に広がった反米デモも、最初は他人事のようにしか思えなかった。だがある朝気づくと、自家用車の後部座席の窓が割られ、中にコンクリートの塊が投げ込まれていた。

「酔っ払いの仕業と思うことにした」と言うストーンだが、こうもつけ加えた。「軍のナンバープレートだから、私の車だとわかったはずだ」

韓国ではこのところ、駐留米軍への風当たりが強まっている。米軍基地には火炎瓶が投げ込まれ、街で米兵が罵声を浴びせられることもある。

韓国の次期大統領となる与党・新千年民主党の盧武鉉（ノ・ムヒョン）は、韓米地位協定の改定を選挙公約に掲げた。「ヤンキー・ゴー・ホーム」という横断幕がかかった会場で演説したこともある。

地元紙コリア・タイムズの最近の世論調査によれば、米軍は北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との和平に貢献していると答えた回答者とほぼ同数が、北朝鮮との緊張が高まっている原因の一つに米軍を選んだ。

反米運動が高まったきっかけは昨年11月、女子中学生2人を装甲車でひいて死亡させた米兵2人に対し、米軍事法廷が無罪判決を下したことだ。演習中に起きた事故だという判決に激怒した市民は、ソウルの米大使館を取り囲んだ。

### ●嫌われてまで守る気はない

彼らの要求は、まずジョージ・W・ブッシュ米大統領の直接的な謝罪だ（ブッシュは米大使館を通じて謝罪を表明したが、市民は誠意がないとして反発）。さらに、公務中に犯罪を犯した米兵に対する1次裁判権はアメリカ側にあると定めた地位協定の改定を求めている。

反米運動の波は学生だけでなく、中流階級の大人たちの間にも広がっている。ある母親は、2人の子供を連れて大使館前の抗議デモに参加した。「アメリカには過去に助けてもらった恩があるから、怒ってはいけないと上の世代は言う。でも、ものすごく頭にきている」

無罪判決の一件は、ただのきっかけだった。最近の韓国では、ブッシュのイラクへの高圧的な態度や、昨年のソルトレークシティー冬季五輪での判定までが怒りの対象になっている。

反米派のなかでも、大統領選で盧を支持した若年層は愛国心に燃え、主張の強いタイプが多い。朝鮮戦争でアメリカに救われたとの感覚はなく、米軍を占領軍としかみていない。米政府の干渉さえなければ、北との和平はすぐ実現すると信じている。

執拗な非難を浴びて、3万7000人にのぼる在韓米軍兵士にも疲れが見えてきた。ギャレット・マコイ空軍大尉は、批判しているのは「声の大きい少数派」だとしながらも、自分の任務や家族の安全に疑念を感じざるをえなくなったと言う。「私を追い出したがっている人たちを守る気にはなれない」

核兵器開発をちらつかせて、瀬戸際外交を進める北朝鮮。一方、反米運動が高まる韓国。そんななかで、マコイは家族を早めに帰国させようかと考えている。「帰国ラッシュが始まる前に手を打たないと」

ニューズウィーク日本版

**2003年1月15日号　P.26**

©2003 Newsweek,Inc. ©2003 Hankyu Communications Co., Ltd. 無断転載・複製を禁じます。

閉じる